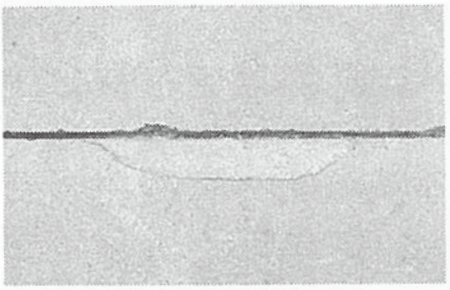
施工後1時間で交通開放

舗装角欠け補修材「スマートモルタル」　NIPPO

NIPPOは、構造物や舗装の角欠け、凹みを短時間で修復する樹脂モルタルタイプの補修材「スマートモルタル」を開発、販売を開始した。既設面に接着プライマーを使用しなくても十分な接着性を持つほか、施工後約1時間ほどで硬化し交通開放できるため、利便性も高い。材料を揉むだけで済むため、取扱いが非常に簡単な点も大きな特長だ。


角欠けを補修

同製品は、構造物や舗装の補修に使用する急速硬化型の樹脂系補修材。色合いは、セメント色と黒色の2種類を用意している。使用温度条件に応じ硬化材の量を調整することで、可使時間と硬化時間を調整でき、低温時でも短時間での交通開放が可能になる。加えて、適度なたわみ性と伸びを持つことから、舗装の変形に追随することで、補修部の損傷を抑制する。主剤容器の中で硬化剤を混合した樹脂液を骨材の入ったビニール袋の中へ投入し、袋のままで混ぜ合わせることができ、混練ミキサーなどの混合器材を用意する必要もなくなる。

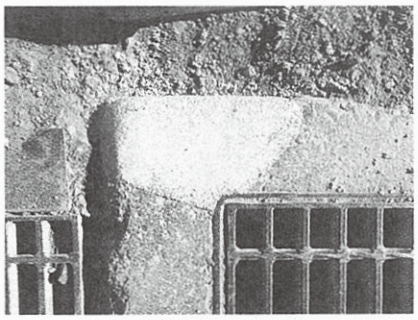
価格は、20㌔の1セットで1万4500円、すべり止め用撒き砂を加えると1セット1万4800円となる。

使用対象として、アスファルトコンクリート舗装やセメントコンクリート舗装をはじめ、半たわみ性舗装、管周り充填など幅広い適用が期待できる。

NIPPO

モルタル補修材を開発
急速硬化で施工性向上

NIPPOは、構造物や舗装の角欠け・へこみを素早く施工する急速硬化型補修材「スマートモルタル」を開発した。袋の中で材料を混ぜるだけで簡単に製造できるほか、柔軟性があるため剥がれや割れに強度を発揮する。また1時間程度で硬化するため、施工後は早期に交通開放できる。



スマートモルタル

施工に際してはミキサーなどの機材が不要で、骨材の入った袋に樹脂液を投入し袋のまま手で揉みほぐすように混合するだけで簡単に製造できる。適用対象はアスファルトコンクリート舗装、セメントコンクリート舗装、半たわみ性舗装などを想定している。

高い施工性と耐久性から、日本道路協会が11月に開いた第32回道路会議では奨励賞を受賞した。

価格は20キログラム当たり1万4500円を予定する。誰でも使用できる簡便な施工性を生かし、メンテナンス需要に対応していく方針だ。

樹脂系の補修材発売

角欠け、へこみを早期修復

NIPPO

NIPPOは、コンクリート構造物とアスファルト舗装の両方に対応した樹脂系の補修材「スマートモルタル」を開発し、販売を開始した。角欠け・へこみ・段差などを短時間で修復できる。素材に樹脂を使用したことで既設部との接着性が向上。柔軟性にも優れるため、ひび割れなどが発生しにくいという。

スマートモルタルの構成素材は、樹脂主剤と細かい骨材。樹脂を骨材を混ぜ合わせることで、高い強度を保ちつつ、適度なたわみ性も持ち、従来のアスファルト補修材に比べて割れにくい。これまでは補修を行う際に、既設面にプライマー（接着に使用する下地塗料）を塗布していたが、樹脂を使用したことで密着性が向上し、プライマーが不要になったという。

素材が早期に硬化するのも特徴の一つ。気温30度の場合に約40分、5度の低温でも約50分で固まり、早期の交通開放を可能にした。さらにスマートモルタル自体に適度な粘性があるため、コンクリート構造物などの角欠けを補修する際、簡単に角を形成できる。

骨材の入った袋の中に樹脂主剤を投入し、袋の中でもみほぐすように混合するだけですぐに使用可能。特別な機材を使わず、こてなどで簡単に補修ができる。

色はグレーとブラックの2色。骨材8・2キロ×2袋、樹脂主剤1・77キロ×2缶、硬化剤などを一つにまとめて販売している＝写真。価格は1万4500円から。